

地域包括ケアに必要な栄養サマリの作成と活用に向けての取り組み

済生会松阪総合病院 NST 看護部 1) 管理栄養課 2) 内科 3)

中井佐奈 1) 伊藤理愛 1) 見並ひとみ 1) 内田瑞穂 2) 松本由紀 2) 福家洋之 3)

橋本章 3) 清水敦哉 3)

【目的】 当地区では 2008 年に松阪地区在宅栄養サマリ（以下旧栄養サマリ）を作成し運用してきたが、施設等から更に詳しい栄養情報が欲しいという声が聞かれるようになった。そこで下記の方法を行い、新栄養サマリを作成した。

【方法】 ①149 施設に対して、栄養サマリに必要な情報についての、アンケート調査を実施した。②新栄養サマリについて、多職種での情報交換会を当地区で開催した。

【結果】 アンケート結果、旧栄養サマリを活用しているのは 40%と少なく、特に経口摂取についての情報不足とする意見が多かった。具体的には嚥下評価、姿勢、食事形態であった。情報交換会では、90 名程度の参加人数で、医師・看護師・薬剤師・PT・管理栄養士・ケアマネージャー・施設管理者で検討し、実際の地域での活用状況と問題について検討することができた。

【考察】 旧サマリは胃瘻症例中心の内容に傾いており、摂食・嚥下に関する情報が不足していた。地域包括ケアに必要な新栄養サマリの作成を行ったが、情報交換会により必要な情報は職種によって違うことがわかった。今後、地域に栄養サマリを浸透させるためにも多職種の情報交換会を継続して開催することが必要と感じた。